

## I 序

戦ひそのものゝ渦巻きのなかに在つて、私は漸く此の貧しき一篇を完成した。脱稿のため  
に費した日數から言へば殆んど半歳半年近くなる。けれども途中で書きかけては行詰り、或  
はまた今更ら此んなものを書いて何の役に立たうか！ といふやうな眞ッ闇まい氣持に襲  
はれたりして、折角出來た原稿を何遍か裂いて棄てた。従つて實際に費した日數は僅かな  
ものである。勢ひ文章も構こ想きも蕪雜ぶざを極めたものとなつてしまつた。

私は中國に來てからもう八年になる。その間に私は九・一八事變以後の日支相尅の波に  
漂つた。その間に私は中國の女と結婚した。それにまた、私の日常の生活は純中國式であ  
る。しかしながら、私は中國について果して何を知り得ただらうか？ 顧みると、私の知  
識の底の淺さ、その貧しさ、我ながら恥かしくなる。従つて、さうした私に中國を描く資  
格などはない筈である。然るに何故敢て筆をとつたか？ 簡単に言ふならば、蘆溝橋事變

以來の動搖の只中に立つ私の胸中に激しく湧き起つた『東洋の運命』を悲しむ感傷が、私を纏繞して此の一篇を草せしめたのである。

今の私には本書に對して何等の野心的期待もない。たゞ私は我が同胞が、涙ぐましくまゝでに崇高な皇軍奮闘のニュースに胸躍らす傍ら、本書に據つて、明日の東洋、明日の日支兩國に思ひを馳せんことを祈るのみである。

昭和十三年四月二十二日

北京にて 著 者

## 目 録

序	一
一、鼎と鋤の文化	三
二、官僚の悩み	四
三、鴉片の煙	九
四、軍閥うらもて	九
五、迷信の世界	四
六、女性の生活相	一七
七、大地の子	三九
八、藝人の生活	五
九、烟花の女	三

我は中國官僚社會の、手のつけようもないやうな苦惱の姿を見ることが出来よう。斯様な社會で『廉潔』とか『正直』とかが何の力を有し得よう！ 何人か個人的に其の肅清を企てたところで所詮は蠶<sup>なまこ</sup>が斧である。安寧海の悲慘な、馬鹿々々しい、しかしてまた滑稽な末路がそれを證してゐる。

併て中國で官僚の地位の確立を見たのは何時頃であるかと言へば、神權統治、貴族政治が崩壊して、専制王權確立されし以來のことである。言ひかへれば秦の始皇の統一以來のことである。従つて官僚が中國社會の上層に登場してより、既に二千餘年の歳月を闊<sup>あ</sup>してゐる譯だ。その二千餘年の間に中國の社會には如何なる基本的な、革新的な變化があつたらうか？ そしてまたそれにつれて官僚社會に如何なる變化があつたらうか？ 私は今簡單に且つ大膽に『何の變化もなかつた』と答へて置かう。

中國人は本來、先進的な一文化民族であつた。彼等は黃河の流域に於て、箕<sup>か</sup>路<sup>ろ</sup>藍<sup>らん</sup>縷<sup>る</sup>、經營に努むるあひだに、幾多の文化創造に於て燦然たる成績をあげた。そして何時の間にか、彼等を圍繞せる諸民族を野蠻民族として見下し得るやうな地位に登つてしまつた。だ

が一度び秦の統一成り、郡縣制が實施されて、専制王權の上に戴<sup>か</sup>き官僚政治が根を張ると共に、其處に一種の停頓<sup>ていどん</sup>がはじまつた。次いで腐敗がはじまつた。『歴史の謎』と言はれ、『アジア式に至められた封建様式の下に於ける中國社會歴史の停滯性』と言はるゝものがそれである。

中國古代の神權統治、貴族政治の實相が、果して孔孟などによつて憧憬<sup>あこが</sup>られたやうなものであつたかどうかは當然<sup>たうぜん</sup>眉唾<sup>まゆつば</sup>ものであるが、兎に角、當時が民族として生氣<sup>せいき</sup>潑刺<sup>せきし</sup>たる時代であり、後來の中國文化の母胎となり、萌芽となつたものゝ總てが當時に醗<sup>か</sup>酵<sup>こう</sup>したことは疑はれないだらう。然しながら春秋末期に至つて鐵器が普遍的に採用されるやうになると、忽ち神權統治、貴族政治に解體を來した。何故なら鐵器が農業生産を激増せしめ、同時にまたそれによつて手工業の發達が促がされて、商業といふものゝ基礎が樹立されてしまつた。原始的な政治形態としての神權統治は、丁<sup>てい</sup>磨<sup>ま</sup>馬<sup>ば</sup>から抛<sup>な</sup>りだされた騎手のやうにスツテンコロリンにひつくりかへつてしまつた。そして馬<sup>ば</sup>——乃<sup>すなは</sup>ち社會そのものは騎手が負傷したか、死んだか、そんなことにはお構ひなく躍進して行つた。

## 支那の知識 目次

抗日支那の感觸	高木陸郎	一
北支事變の經緯	太田宇之助	三
北支政權論	吉岡文六	四
日支國交の今明日	大西齊	六
抗日人民戰線運動	村上知行	六
抗日運動の指導者	原勝	七
中國青年の現状と青年運動	高山翹	全

悲辛の青年中國——青年の病態——青年學生の救亡運動——悲環境に闘ふ——  
中國青年の新たなる迷ひ——

轉換期支那の基本問題……………尾崎秀實…三〇

支那は統一されるか……………有吉明…三七

過去の想ひ出——所謂排日運動——支那の人物——支那の國民性——支那は統一されるか——共産黨の勢力——支那の現在と將來——

蔣介石論……………宮崎龍介…三六

蔣介石の資金網……………高木陸郎…三九

支那の再建……………胡適…四三

支那財閥と國際資本……………原勝…四四

支那民族資本を圍む主要條件——支那財閥の發展過程とその變質——南京政府

と華東及び華北金融集團——國際金融資本の壓制下にある「支那財閥」——  
國際資本の對支進出の特殊部面——

支那に於ける英國の活動……………太田守之助…五一

胡適に答ふ……………芳澤謙吉…五三

中國の出路と中日關係……………陶希聖…五九

(一)二つの故事——(二)社會經濟的轉變——(三)國際政局の激變——(四)民族覺醒の基礎——(五)諸種の論調の批評——(六)中國の出路と中日關係——

民族復興運動……………蔣介石…六一

抗日支那をどうするか座談會……………五七

滿洲事變後の日支關係——親日派は後退したか——外務省はどう出たか？——  
支那を中心にしての日英同盟——北支問題を通じての日支關係——抗日の深因

日本は強硬方針を取るべきか——日貨排斥の状況——南京政府と防共問題  
 ——學生の憤慨——最後の解決方法は——日支共同の防共——最近の支那よ  
 り歸りて——解決とその後——

北支事變の背景……………波多野乾一…三三  
 支那政治系統一覽表……………三六  
 支那軍隊一覽表……………三九  
 支那軍の現状……………四六  
 支那問題文獻……………五〇  
 時局知識シリーズの編輯者として……………室伏高信…五三

# 支 那 の 知 識

院の一室に閉じこもつてゐた。

だが、胡適が「殉教徒的な抗日」であることには何等の變りもない。彼は到る處で、會ふ人毎に「日本の不法」と「支那の抗日の當然さ」とを説明してゐる。太平洋會議でもさうであつた。ここに自由主義者としての胡適の良心と性格的優柔さが發見されるのである。

とまれ、胡適之は支那の文藝復興の歴史的な指導者であつたとは云へ、政治に關する限り革命家ではあり得ない。

## 中國青年の現状と青年運動

高 山 翹

中國青年は、その祖先に、長久なる文明と光輝ある歴史とがあつたに拘らず、又その國土の廣大と、資源の豊富とそして人口の衆多とに拘らず、現實に於て、社會公人として、他の文明國家の青年階級に比し、これほど慘めな存在はない。極めて少數なる青年は個人主義經濟の恩惠としての父母からの遺産によつて美衣美食、「嫖」<sup>ばう</sup>「賭」<sup>と</sup>「飲」<sup>び</sup>の三大悪を恣いままに發揮させてゐるが、大多數の青年群には讀書、職業、結婚、遊樂の機會がなればかりでなく、待つてゐるものは社會不安と混亂と腐敗とがある許りである。青年は純眞である——といふのは誠に幸福な他國の話であつて、中國青年はその國內の封建的遺習に比較的少く染つてゐるだけそれだけ、國內に於ては比較的によく純眞さを持つては居るが、一步その青年が國外に出て他國の同年輩の青年と比較されると、文字通り老成青年であることが感ぜられる。他國の青年の純眞な頭腦の持主（これは主

として貧苦、好學の青年者であるが)はこの中國青年を珍しがり「君はなかくシツカリしてゐるネ」と褒めるけれども、褒められた青年はかゝる賞識には夙に馴れ切つてゐるから少しも反響がないばかりでなく却つてその他國の青年を弟分に視て軽じたり羨んだりする。かゝる感情を起させる所以のものは實にこの中國青年があまりに多くの社會的苦難を體驗してゐるからである。最も卑近な例はベルリンのオリンピック大會で見られるだらう。即ちこの大會に於てスポーツ中國は一本の青天白日旗をも掲げさせることが出来なかつた！ 國家社會の不安は國民の體育をも低下させる。米國のある醫學者の發表によれば中國は癩病では「世界第一」であると云ふ。

### 迷羊の青年中國

中國青年の病態はあまりに多種多様であつて、どの病患も原因が結果を生み、結果が又原因をつくつてゐるので一起一伏、病源の歸屬性がハッキリしない。そのハッキリしない病源の、現れた結果として次の徴候を擧げることが出来る。

先づ最も著しい徴候は中國青年階級が賢明な指導者を持つてゐないことである。孫中山先生は

傑出した先覺者ではあつた。その三民主義は民族生存の「方法論」として一つの優れた形式ではあるが本質的な、哲學的な歸納ではない。孫中山主義は消極肯定に始まつて消極否定に終つてゐる。

右は個人の能力の限界として、已むを得ないとしても、其後繼者たる國民政府及び國民黨の指導者達が三民主義乃至は國民黨の黨是の批判を禁じ、且つ自らその是正をも怠り、たゞ獨善排他を事としてゐるのは、中國の進歩を阻害する尤なるものである。だから中國の有識青年にして國民黨乃至政府に官諫を求めない階級の中から國民黨信者を探し求めることは曉天に星を數ふるに等しい。

かくして中國青年は「志同」を失つた！ 彼等には希望がない。魂は遊離する。これが前因後果をなして、その影響する所途に中國の産業は衰亡し、交通事業は停頓し、教育は昏迷に陥つて了つた。

今日の社會不安は明日の不勉強、不精進を結果する。一切が馬、<sup>か</sup>々虎<sup>たん</sup>々主義に墮し、従つて、青年には就くべき職業がなく、求むべき戀愛對象がなく、得べき學問がなく、更ちに享くべき遊樂



機關がない。かくして彼らの求めてゐる對象は、他の文明國家の諸施設及び諸形態に比較して、最も水準の低い間に合せたものである！現代中國の樂壇に世界的な樂人の在るを知らず、中國の科學界に世界的な發明家の在るを知らない。更に國內外人民の幸福に貢獻する人格高潔な政治家を見ず、世界屈指の富豪もゐず、さればとして、ロシアに今日見るスタハノフ流の能率主義者をも生まない。

### 青年の病態

以下に中國青年の煩悶の實態を現像して見よう。

A、中國は文字の國である。又謂ふところの「文章文化」の國であり、讀書人の尊敬される國である。彼らは讀書の時代を「池中の蛟龍」と自認し、他日、必ず池から飛び立つ事のある日を期待してゐる。だが現實社會は彼れを遇するに「失業」を以てした。

B、國民黨が政權を握つて以來、一部の青年は革命黨に身を投じて出世し、一部の人は「過激主義者」を懼れ難ひ、かくして學校を退き、明日の希望を失つて彷徨し、進むべき「門は窄く」な

るばかりであつた。出世した軍官の甲は熱血なる愛國精神の爲めに曠野に屍體をさらし、乙は大酒樓の中で歌姫を抱いて、そこで「被壓迫民衆を領導する」歌を高唱してゐた！

C、在來の舊封建社會及び其經濟基礎は根柢を失ひ、外來の新經濟觀及びその手段は無慈悲に舊經濟思想及び生活者を壓し倒した。かくして民族思想は「分化」した。資本主義はそれ自體幾多の矛盾を包蔵して進み、その矛盾の克服の爲めに對峙して登場した社會主義思想は一切の舊きものを破壊し、破壊に絶つて未だ建設が出来ず、かくて中國社會は大動搖を來した。これは今日まで尙續いてゐる社會的煩悶であり、陣痛の最中である。

D、五四運動（一九一九、大正八年）の時、曹汝霖は悲憤に激昂せる三千餘人の青年學生群に對して「俺たつて、清清の變革時代に、君らのやうに熱烈に時の當局に向つて「賣國賊」と罵倒したものだぞ——と説教した。曹汝霖は清朝をくつがへした多數の中の一青年先覺であつたが、彼れが政權を握ると、社會環境を自分の都合によいものに改造し、征服した。當時曹汝霖を國賊呼ばりした革命青年は今日現存して居り、それが官僚か軍人かであれば、必ず二十臺、三十臺の青年からは「軍閥、私黨」と陰に陽に罵倒されてゐるに違ひない。

第二の曹汝霖は現實に存在してゐる。かくて腐敗は連續してゆく。

E、遺産を繼承して不勞所得を企み、親族の權勢に頼つて、文憑(卒業證書)に物をいはせ、金錢によつて官職を買ひ、かくて墜落、卑劣、懶惰、佛伴心等の慢性病態を來した。

F、根柢を掘り下げる探究心、創造的精神を失ひ、一切の「新しきもの」を崇拜し、その實「新しきもの」に最も不忠實な奴隸と化し、かくして理性を失つた盲目青年が産み出された。

G、遠大なる目標と抱負を抱いても、功名心に急なものと反比例して抵抗力弱き爲め、不利逆境に直面すると一たまりもなく挫折し、途半ばにして廢業する社會文化運動團體の如何に多いことか？ かくて沈着な精神は失はれ、浮薄な思想が青年の頭腦を占領した。

H、大多數の中國青年男女は(一)目に一丁字なく、家庭に閉ち籠る女子と(二)手足のみを働かず勞働男子である。民國二十一年度の教育部統計によれば、中等學校在學及び卒業生總數は、十萬四千人高等教育者數は四萬二千人で毎年合計十五萬人位の卒業生を社會に送り出しているが人生五十年と見、且つ民國以前の識學者の僅少率から見て、現在文字を解するものは全國に四百餘萬人しかなく、全人口四億五千萬人に比すれば、僅か百人に一人の割合で文字を解するといふ推

算となる。これを日本の九十九パーセントと比較すると問題にならない。かくて多數の文盲群は慘酷な「非人間的待遇」を餘儀なくされる。中國社會にかかる大難がある爲めに國民の共通意思が斷たれ(言語の複雑と漢文字の難解も原因して)、延いては政治に悪影響を與へる。婦人運動も、農工經濟解放運動も、それらの協力者および養地が出来てゐない爲めに常に不調に了つてゐる有様である。

I、頭腦の明敏な青年は一人として現實の環境に満足する人がゐない。特に今日の如き内争外侮日を繼いで現はれ、爲めに一切の事業が停頓し殆んどその極點に達したのを見て刺戟材料たどさるはないのである。だが大多數の青年は已れに改造力量なく、又明確なる指導原理が授けられない爲めに懷疑し、彷徨し、かくて人生を否定的に見、これに加へて經濟基礎なき爲め遂に厭世自殺の不幸なる結果を見る。二、三年前は特にこの現象著しく、政府教育部や各市當局は躍起になつて自殺防止の宣傳をしたほどである。かやうな避世的時弊は青年を驅つて一部有産者を享樂方面に走らせ、茲に「灰心」が培はれ頹廢病が流行しつつある。

## 青年學生の救亡運動

以上は中國青年の「苦悶の象徴」である。しかし青年は物理學的に發展進化する、水が低きに從つて流れてゆく様に。停滞や障礙は一時的現象であつて、永久に許される事ではない『青年は少壯の人を謂ふ、草木の方に青からんとするが如き也』と「辭源」は解く。方に膏葉のやうに茂つてゆく、何といふ豪快な表現であらう。時には「蔭」もあらう。だが青年はこの蔭の重圍を破つて太陽を仰ぐことが出来る。中國青年の社會運動——文化向上の勞作はこの「蔭」に對する排撃である。陳獨秀、胡適の文學革命運動は、漢文の貴族主義を打破した。而して今日淵淵斯徳の在留華人士萬人に涙を發する中國文字のラテン化は、漢字そのものを根こそぎ破壊しようとして猛火の勢ひで中國青年に影響を及ぼしつつある。さらに又「五四運動」に始まつた學生運動は外交當局を鞭撻し、外侮に屈する度敷を低減させつゝある。

× × ×

胡適氏はいふ「變態なる社會國家にあつては、政治が腐敗し、國民に眞正なる糾正機關(國會)

がない時には、政治に關するものは必ず青年學生界から起る」——然り、而して學生の大群を驅つて政治運動に走らせたのは、資本主義發生後の事であつて、それ以前は學校制度が普遍化せず、交通不便の爲めニュースが行届かず、從つて全國的に擴大しなかつたが、民國八年(一九一九)を初回とする五四運動(五月四日、北京大學を中心とする學生三千餘名、殺到して外交總長曹汝霖邸宅を燒拂ふ)を契機として、北京から全國に擴大した。

五四運動は二十一ヶ條要求反對及び、反キリスト主義を標榜して「大學生聯合會」が労働者農民を糾合して起つた。この事件の漸く忘れられんとした時、五卅事件が起つた。五卅事件は民國十四年(一九二五)五月三十日、上海の學生、工人、市民の各團體が日本紡績工場に於る労働者殺人事件に起因するストライキ、デモに當り、共同租界英國當局が發砲したので反日運動が急轉回して大々的排英運動となつた。

次で大正十五年(民二五、西一九二六)三月十八日の「三・一八」運動は天津白河の自由航行に關する列國(八ヶ國)の最後通牒に反對する爲めに全北京大學中學の學生團がデモを行つて巡撃と衝突死者二十六名(うち女二名)負傷者百餘名を出した。これは民衆運動始まつて以來の最

も悲惨な記録であつた。

九、一八事件は一九三二年（民國二〇、昭六）九月十八日の滿洲事件である。この時の學生運動は民族救亡、反帝國主義の外に封建勢力、軍閥、賣國漢奸に對する抵抗でもあつた。次で一九三五年十二月九日を初日として翌年一月迄の二ヶ月間に亘る華北自治反對運動は、北平、天津、杭州、上海、南京、廣東、福州、厦門、南昌、成都、開封等、全國各都市に亘り、學生及び市民は、冀察委員會反對、内戰停止反對、言論自由要求等を以て起つた。十二月十六日の冀察政權成立反對デモには五六萬人が参加し、到るところで軍警との衝突があつた。

### 惡環境に闘ふ

特に注目し得るのは九、一八以前の學生青年運動は、彼ら自身生活の根據をもたず、さりとて挺身救國の實踐運動に入るにはあまりに微力を爲め遂に永續せず、しかしながら、この運動毎に労働運動を刺戟し、且つ政府當局を驚倒させるには役に立つただけで了つたが、九、一八以後、特に昨年の華北自治反對の時は從來の態度が清算されて次の如き新現象を來した。

一、反抗抑壓の爲め軍警の大刀隊、ピストル隊の組織は従前のそれに比し、強化されたに拘らず、學生團の勇敢無畏の精神はこの惡環境に處してよく闘つた。

二、今回のデモは徹夜の中に準備し、徹夜の中に進行し、或は未明のうちに出發して夜に至つても歸らず、組織はいよゝく嚴密となり、當局の裏をかく計畫で始終した。

三、民衆に對する宣傳は以前より速く而も強力且つ深刻であつた——これらは從來の學生運動に見ざる特質であつた。ある雜誌の筆者は、青年に向つていふ『中國の青年諸君よ、汝らは民族の光だ、民族の血だ、中國民族の解放運動は汝らが來つて先鋒となるものである！』と。

### 中國青年の新たなる迷ひ

中華民國成立以來二十五年を閲した。今年、やうやく蒋介石政權によつて國民黨治下の國民政府は統一の軌道に乗つた。日本や英國の如き老人内閣に比べて見れば、國民政府の首腦部はまだ若い。しかしこの若い指導者を監視し督勵してゐる中國青年群は尙若い。『若僧に何が出来るか！』といふ、喝は中國では通らないのである。十年前數萬乃至十數萬の人民を殺した國民革命軍も、

今日百名の學生青年を殺したら政府は倒れざるを得ないであらう。民衆の力は團結しつある。人民の輿論は向上しつある。國民政府は今、輿論の反對に邁つては手も足も出ない。

蔣介石氏はその昔は思想の何もものなるかを辨へない戰略家であつた。だが彼れも今は青年中國の民衆に教育されつある。「國防強化」も「新生活運動」も「國民經濟建設運動」も民論に投じた「中央特製」の社會運動である。更に青年學生の間では文化建設（中國本位文化宣言）運動及び「國防文學」が實踐されつある。かくの如く上下、縱横の運動は、歸結すると、内争、外侮に對する青年中國の反抗運動である。特に、中國ソヴェトの綱領は、最も明白にそれを露出している。中華民國に國民黨と共產黨が存在對立してゐる以上、中國青年は迷ひを續けるであらう。而してこの迷ひは中國青年自身の手によつて近き未來に解決されなければならぬ。

× × ×

## 轉換期支那の基本問題

尾崎 秀實

一九二一年の革命は、支那に民主主義的、資本主義的發展の途を急進に開くかと思はれたが、帝國主義に支援を得た、殘存せる封建的官僚的ニ勢力の反攻に會つて容易にその展開を果し得ない状態に停頓してゐた。一九二五年―二七年の革命運動はロシア革命の直接の影響によるプロレタリア解放運動の廣汎な地盤の上に、被壓迫民族解放を目標としたものであつたために、運動は異常なる熱を帯びて、支那民衆をその二重の枷から直ちに解放し得るのではないかとの感じをさへ一般に興へたのであつた。當時支那の革命運動をもつてプロレタリア革命であらねばならないとする見解が相當有力に行はれてゐた。支那の民衆を封建的ニ帝國主義的支配（支配に於ては）

もあるが、是は何處の國でもさうであるが、誰か人が亡くなつた場合には後から後からそれ／＼の人が出るものであるから、左様な豫想は所謂杞憂であらう、兎に角、現在に於てはどうも兩氏が鑿鑿であつて、他にも各種各様の特長を持つて居る人達が居られるが蓋し指摘し得べき人物としては兩氏に止めをさすやうに思つて居る。歐米派とも傳へられて居る人の中では宋子文氏の如きは、其の人物、力量、經濟界に持つて居る一種の勢力等に於て侮るべからざる資格を持つて居る人のやうに認めて居る。只衆して同氏が政治家として大成し得る人がどうかは豈か疑問である。

### 支那の國民性

第一は面子を重んずる。體面を重んずる。第二は守舊で保守より一步強い氣がする。第三には平和の民である。争ひは餘り先天的に好まぬたらうと思ふ。語り妥協性に富んで居る。面子所謂體面を重んずると云ふことは既に云ひ古された言葉で、どうかすると面目を失せぬ限りには、或程度の權利をすらも犠牲にすると云ふことは往々あり得る。守舊——舊を守ることに付ては全然

國民に滲込んだ考へで、例へば、民國以來曆は新曆を採つて居る。然るに今日に到る迄、上海の如き開港場と雖も舊の正月を守り諸官衙だけが新に休むが、民間は單に附合ひに一日位休むに止まり舊の正月になれば民間一般に一週間乃至其以上の長きに亘つて店を閉めて、依然として舊の正月を守つて居ると云ふのも守舊の一つの現れである。國民黨の天下になつて三民主義を振擧して一時は宗教等をかなぐり捨て、孔子なんかと云ふものはほつたらかして、新しい主義で行かうとしたのが最近では孔子廟を修復し、孔子祭を復興し孔子教の獎勵を始めた。是は實に結構な事であるが而し一面一般國民性が急に新しき方面に行かうと云ふことを困難ならしめる譯である。此守舊性は各方面に現はれて居るやうに思ふ。

第三は平和の民で争ひを好まぬと云ふ點であり、延ては妥協性に富む事になつて来る。それは最近の例から云つても西南派との争ひで戦争すると云つて居るが中々戦争はやらぬ。矢張り手を廻して雙方から妥協して解決しようとする。現に廣西との間に戦争をするやうに云つて居ても、本當は妥協したいのである。蔣介石も閻錫山や馮玉祥相手に戦つて居り、色々な場合に戦争が起つて居るが、是等は所謂乘るか外るかの利害關係に基いて萬已むを得ざる場合にやるのであつ

て、多くの場合にはどうしても出来るだけ和平裡に穩かに話を付けようと云ふのが、支那の國民性に一般に互つて居る。獨り政府筋の者だけでなく國民と雖も餘り喧嘩をせず、表面は所謂面子さへ立てば話を付けてやつて行くと云ふところに、支那の國民性があるのではなからうか。どうも支那人は豹變して信用が置けぬと云ふやうな事も、間々云ふ人もあるが私はさうは考へない。現に元來支那人と云ふものは商取引に於ては非常に信用を守る、商賈人として堅い人間だと多くの國に認められて居つた。それは多少私は事實だと思ふ。只支那人は氣が長い。之も國民性である。日本人は氣が短い。例へば約束した事でも今日約束すれば翌日は履行しなければ違約のやうに云ふ。支那人は氣が長い性質で約束すれば之をやれば宜いと云ふので打棄つて置く譯ではないが其儘になつて居ることがある。日本人の方からは約束し放したと云ふが、どうかすると此方が忘れた時分に約束を履行する場合が往々ある。之等も矢張り國民性の日本と違ふ點に於て斟酌を要する問題ではないか。私は支那人は或る程度迄矢張り信頼し得べき國民だと考へて居る。

### 支那は統一されるか

現状に於て支那は近來に統一傾向が見えて居ると思つて居る。是は二、三の會で云つた事であるが、私は今度行つて見て支那の變化を感じたのは著しき通信、交通の發達である。無線電信の發達、鐵道も非常に著しい進歩こそないが、漸次敷かれて來るし自動車道路は旺んに各地に出来る。殊に航空に至つては實に著しい發達を遂げて居る。是等交通上の發達は要するに廣く支那が段々に小さくなることと同じ意味である。其上に滿洲は大滿洲國が出来て、所謂東四省と云ふものが切離れて居る。加之新疆方面ではソヴィエットの勢力が這入つて來て養向きではないが事實統制の外にある情勢が見える。西藏でも英國の勢力が浸潤して來る。斯う云ふ風に外國の壓迫が來ると國は固まつて來なければならぬ。即ち内外の情勢が相待つて統一的傾向を促進さすつゝありと見られる。

其上に私は今度行つて見て、所謂國民黨の勢力の増進の善數を感じた。第一次革命當時の如き革新當時の如き革新同志會から起つて新舊の小さい政黨を集めて國民黨を拵へた時分には、尙ほ